

令和4年度宮城県NPO等の絆力を活かした震災復興支援事業 石巻地域助成対象取組一覧

番号	事業名	事業実施主体	対象地域	事業目的・概要
1	地域のネットワークを活かして暮らしの足を守る助け合い送迎事業	特定非営利活動法人移動支援Rera	石巻市 東松島市 女川町	①被災地の住民に寄り添いながら。移動困難な住民のための助け合い送迎活動 住民互助のボランティア送迎(送迎の担い手は地域住民)。9月(予定)から、福祉有償運送に切り替え、タクシーの半額程度の料金を徴収しながら、次年度以降の活動の継続性を高める。(日曜・研修日を除く毎日実施) 福祉有償運送の利用可能条件に合致しない、移動困難者については、引き続き助け合い送迎活動を実施する。 ②外出できない住民が心豊かに暮らすための「付き添いつきお出かけ送迎」(毎月1回実施) 車いす利用者等も参加できるよう、介助ボランティアと一緒に、買い物、お墓参り、ドライブ等近郊への外出イベントを企画する。 ③地域の移動の担い手発掘 送迎の担い手を増やすため、毎月新聞で募集記事を掲載したり、労働組合等退職者向けに働きかけを行う。
2	みやぎ高校居場所ネットワーク事業	特定非営利活動法人Switch	石巻市 東松島市 女川町	①「NOTEcafe」事業 学校内での就学・就労相談窓口、個別・集団講座の実施、大学生・社会人ボランティアとの交流、生徒の生活環境や心理面での相談窓口等を行う。 定期訪問:3校各10回／年 スポット訪問:県内高校5回／年 ②『『働く・学ぶ』応援窓口』事業 沿岸部を中心とした被災高校生の『まなぶ・はたらく』に係る相談窓口の設置 ③「高校内居場所カフェハンドブック」の作成 宮城県内で高校内居場所カフェ事業を普及させるために、これまで実施してきたNOTECafe事業の推移をまとめ、ハンドブックを作成し、事業の広がりを目指す。(500部制作) 同冊子内で「高校内居場所カフェマニュアル」を無償提供し、県内の高等学校がノウハウを共有し、主体的に展開できる環境を構築する。
3	働きたい女性と地域社会とのつながりを作る、コミュニティ形成支援及び仕事創出事業	特定非営利活動法人応援のしっぽ	石巻市 東松島市	①製作者コミュニティの形成支援 募集から登録、技術審査や講習会を経て、登録メンバーネットワークを作り、情報交換もしくは互助的なコミュニティにつなげていく。 ②製作者コミュニティの技術講習会開催などによる技術レベルアップ 製品化できる一定の技術レベルを担保するために、仕事に応じて技術講習会を開催する。 ③仕事創出と受注体制の改善と新規構築 コープ共済連のキャラクターノベルティの制作など、これまでの支援ネットワークをもとに仕事を創出していく。また、毎年の受注が見込める園児及び小中学生の指定制作物を仕事として受けられるように図っていく。 ④復興公営住宅ワークショップ開催による自治会コミュニティ形成支援(月1回、3箇所) 制作者コミュニティから講師を派遣し、ミシンや手作り小物などのワークショップを行う。 ⑤外部支援組織との交流によるコミュニティ活性化と継続化
4	石巻南浜復興祈念公園の青空の下、地域住民のこころの復興事業	特定非営利活動法人こころの森	石巻市	①こころケア植樹、花畑事業 地元住民が次世代の人々のために森をつくる活動は、奉仕する喜びを学び生きがいとなり、こころの復興につながるため、1年で12団体、1,000名による花畑事業を行う。 ②コミュニティガーデンカフェ事業 地元住民が石巻南浜復興祈念公園内のこころの森ガーデンカフェ(常設カフェ)で、ガーデンを眺めながら、お茶のみ、ランチ交流を図る。(月12日開催)
5	子どもの孤立をなくし自立をサポートする地域コミュニティ事業	特定非営利活動法人こどもむげん感ばにー	石巻市	①地域コミュニティと子どもの社会的自立のためのみまもり隊コーディネート事業 様々な職歴や経験をもつ大人たちが、プレーパークやフリースクールを通じて子どもと出会い多様な価値観や特技、子どもを見守る機会を提供することで関係性が生まれ、“地域の子どもは地域で見守り育てる”地域性を構築する。 ②子どものSOSをキャッチし子どもに寄り添う。専門機関へとつなぐ事業 子どもを見守る中で、当法人スタッフを中心にみまもり隊と共に子どもの相談相手となる。必要に応じて相談機関等と連携し対応する。
6	小学生の時に被災した子どもたちと現在被災地で暮らす子どもたちとの交流によって生まれる絆づくりのためのキャンプ事業	NPO法人サクラハウス	東松島市	小学生の時に東日本大震災を経験した野蒜地域の子どもたちが、同じ被災地域に暮らす子どもたちに対するボランティア活動に参加することによって、生きがいを見つけ、他者に仕える喜びと他者に必要とされる喜びを経験し、震災の傷を乗り越える心の強さを養う場を提供する。 また、震災前後に生まれた小学生(間接的被災者)が、上記学生や他校の友達と交流を持つことで、他者に受け入れられている喜びと安心を経験し、自らも積極的に他者と関わりを持ち、他者を受け入れる心を養う場を提供するため、子どもキャンプを年3回実施する。